

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成23年1月27日(2011.1.27)

【公表番号】特表2006-522764(P2006-522764A)

【公表日】平成18年10月5日(2006.10.5)

【年通号数】公開・登録公報2006-039

【出願番号】特願2006-505033(P2006-505033)

【国際特許分類】

C 07 C 51/25 (2006.01)

B 01 J 27/057 (2006.01)

C 07 C 57/05 (2006.01)

C 07 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 07 C 51/25

B 01 J 27/057 Z

C 07 C 57/05

C 07 B 61/00 300

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年12月2日(2010.12.2)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項1】

プロパン及び/又はイソブタンを少なくとも1つの目的生成物であるアクリル酸、メタクリル酸に不均一系触媒作用により部分直接酸化する方法であって、反応ガス出発混合物用の入口、場合により補助ガス用の別の入口及び生成物ガス混合物用の出口を除いてガス側で封止されている反応段階に、プロパン及び/又はイソブタン、分子酸素及び少なくとも1つの不活性な希釈ガスを含有し、入口圧力P¹を有する反応ガス出発混合物を供給し、反応段階において反応ガス出発混合物を高められた温度で固体の集合状態である触媒に通過させることにより反応出発混合物中に含まれるプロパン及び/又はイソブタンを少なくとも1つの目的生成物に直接部分酸化させ、かつ反応ガス混合物を少なくとも1つの目的生成物として含有し、出口圧力P²を有する生成物ガス混合物を、反応段階から外へ及びこの圧力P²で、ガス側で生成物ガス混合物用の入口、場合により補助ガス用の別の入口及び残留生成物ガス混合物用の出口を除いて封止されている後処理段階へ導き、後処理段階において反応段階の生成物ガス混合物からその中に含まれる目的生成物を液相中へ基本分離し、かつその際に残っている、プロパン及び/又はイソブタンだけでなく並びに場合によりプロパン及び/又はイソブテンを含有し、出口圧力P³ [ここでP³ < P¹である]を有する残留生成物ガス混合物を、後処理段階から外へ導き、かつ残留生成物ガス混合物中に含まれるプロパン及び/又はイソブタンを反応段階へ返送する方法において、

P³が1.5bar以上であるようにP¹を選択し、反応段階を通過する反応ガス混合物のワンパスに基づくプロパン及び/又はイソブタンからなる転化率が10~70mol%であり、かつ残留生成物ガス混合物を同じ組成の2つの部分量に分割し、かつその中から一方の部分量を流出物として外へ移し、かつ他方の部分量を循環ガスとして返送し、かつ反応ガス出発混合物の成分として入口圧力P¹に圧縮して再び反応段階に供給し、その際に残留生成物ガス混合物の流出物として外に移される部分量に対する残留生成物ガス混合物の循環

ガスとして返送される部分量の量比 V が、2 以上かつ 3 0 以下であることを特徴とする、プロパン及び / 又はイソブタンを少なくとも 1 つの目的生成物であるアクリル酸、メタクリル酸に不均一系触媒作用により部分直接酸化する方法であって、
圧力 P^3 が 2 bar 以上かつ 3 0 bar 以下である方法。